Taxonomyに刺激を受け，編まれたものと推測しているが，読み易い簡潔な記述と巻末に付された膨大な訳語つき用語集がたいへん役立った．ここで初めて和訳されたと思われる術語も少なくはなく，私は今でも座右に置き重宝している．

『花のある風景』(1984）には，先生が依頼に応じて随所に発表された総説や随筆が纏められており，先生のお人柄が彷彿としてくる．また晩年，日本では最初の多数の専門家を執筆者に迎えての日本植物誌といえる，平凡社刊『日本の野生植物』の出版にご尽力された功績には大変大きなものがあると思う．

私事にわたるが，1973年にイイデリンドウのことを本誌雑録に書いたが，それが幸いにも先生の目に止まった．その頃，先生は飯豊山の植物を雑誌ガーデンライフに載せるべく執筆されていた．先生はその総説の中で私の説を紹介して下さったが（佐竹 1984 に再録)，以来先生には旧知の間柄でもあるようによく声をかけていただき，当時多くの時間を過ごしておられた山梨県長坂町発信のお手紙・はがきをいただいた．また，標本を調べるために時々東大にひょっこりとやって来られた．今，そんな折，先生から，ホシクサ科とイグサ科の研究を引き継ぐよう何度も誘われたことを思い出す．心から先生のご冥福をお祈り申し上げたい．　　　　　　　　(大場秀章)

参考文献

佐竹義輔 (Satake Y.). 1963. 西イリアン記. Journal of Researches in West Irian—Nature and Life in New Guinea. 廣川書店，東京.
—— 1964. 植物の分類. 第一法規出版.
—— 1967a. 一つの記録. 日本植物分類学会会報 **2** (1): 5–6.
—— 1967b. わたしの研究歴一植物研究40年. 自然科学と博物館 **34**: 153–162.
—— 1984. 花のある風景. アボック社出版局，鎌倉.

新　刊

□鳴橋直弘（編著）：**とやま植物物語** 299 pp. 2000. シー・エー・ピー書店. ¥2,000（税，送料別).

富山で植物の研究に関係している17人の共同執筆で，55種類の植物を，1. 富山県で見つかった植物，2. 分布や生態で特色のある植物，3. 県民に親しみのある植物の項目に分けて，それぞれの植物を紹介し解説している．1ではエッチュウミセバヤ，トガマダイオウ，タテヤマキンバイ，タテヤママリモ，コシノヒガンザクラ，ホクリクムヨウランなど15種類，2ではツガ，ブナ，エゾヒナノウスツボ，オニバス，アオネカズラ，タキミシダなど18種類，3ではタテヤマスギ，ユキツバキ，カタクリ，ドクダミ，クロベ，アシツキノリなど21種類が取り上げられている．それぞれの植物の発見の由来，形状，分布，生育状態，その植物に関する研究の紹介，その植物にまつわる話などが述べられている．学術的なものや，随筆風のものなど，人によって内容は様々であるが，日頃から現地の植物に接していなければ書けない内容であり，地方の植物誌としての特色を示している．これからの地方での研究のありかたを示唆するものとして興味ある著書である．問い合わせは，〒930-0873 富山市金屋1634-25　シー・エー・ピー株式会社まで．

なお，同じ出版社からでている，長井真隆：とやま植物誌（1994，￥1,800）は，富山県の種々の植物を，主に植生の上から解説した意欲的な内容のもので，上記のものと合わせ利用すれば，富山県の植物の理解に役立つであろう．　　　　　　　　(山崎　敬)

□国土地理院：**数値地図25000（地名・公共施設）全国 CD-ROM 版**．2000年．日本地図センター．￥7,500.

2万5千分の1図上の注記（文字列のこと．いわゆる地名にあたる）約467,000件および公共施設名約103,000件が収容されている．公共施設とは国や地方機関，警察，学校，病院，郵便局などで，地図上では記号で表示さ

れているものがほとんどなので，これらが文字で検索できるようになった．レコードは漢字，読み，位置（秒の小数およびメッシュコード），属性（たとえば自然地名では森，林，原，砂丘，湿原など），所属行政区画，所属地図名など，非常に多くの項目から成り立っている．多くの項目には文字と共に階層コードが与えられているので，これを利用すれば文字面にかかわらず同種の地名を抽出したり，分類，配列したりすることができる．データはそれぞれ CSV，BDE，MDBの3種類の仕様で作られているので，利用者は自分に都合のよいものを選べばよい．国際的利用のためにローマ字項目も用意されているが，いまのところ空白になっている．第一第二水準以外の文字は外字リストをインストールして表示できる．基礎資料とした地形図の管理情報が別ファイルとして付属しているので，分布記録に地図単位のメッシュを利用している人には，これも便利だろう．検索や表示のための簡易表示ソフトを内臓しているので，データベースソフトを持たない人でも検索や抽出ができる．検索結果の印刷はもちろん，外部ファイルに取り出すことも可能である．これらの情報は1998年迄に刊行された地図から得られた最新のもので，データの更新は毎年行うとのことである．本 CD-ROM は National Gazetteer に当たるもので，わが国でも遂にこういうものができたことはまことに慶ばしい．とくに地名の読みがこれによって一つのよりどころを得たことは，分布情報のデータ化を行う者の悩みの一つが解消したことになる．値段にくらべて非常に利用価値の高い情報である．私の日本地名索引はこれで役目が終わったかというと，そうともいえない．なにせ「最新の」情報なので，標本ラベルに現われる古い地名や「誤った地名」は検出できないし，毎年更新されてしまう．とは言っても，毎年やれるとは思えないが...少なくとも旧5万や20万図のデータについては，弱体ながら当分出番があるだろう．近い将来測地系の変更が予定されており，その際には経緯度値に変化があるが，換算方法については決定次第公表するとのことである．直接購入の場合は，日本地図センター（〒153–8522 東京都目黒区青葉台4–9–6 Tel. 03–3485–5414, Fax 03–3465–7591）に文書（Faxを含む）で申し込めば，請求書つきで送付してくれる．

（金井弘夫）

□五十嵐　邁，福田晴夫：**アジア産蝶類生活史図鑑 I**　550 pp. 1997. 東海大学出版会. ¥43,260.

著者らが約30年間に蓄積したアジア産蝶類約600種の生活史の資料のうち302種をとりあげ，それぞれの幼虫，卵，蛹，成虫（雄雌）のカラー写真で記録している．記述としては，各種の食餌植物，生態，簡単な形態的特徴などが日本語と英語でまとめられ，分布図がついている．食餌植物の写真も150枚以上あり，たとえばウマノスズクサ科31種の中にはニューギニア産など珍しいものを含んでいる．植物の同定は初島住彦博士によるという．図版は写真，製版ともに最高の出来であり，著者らの蝶類への情熱と愛着が感じられると共に，生物の生態記録のあり方を問いかけているようでもある．　（邑田　仁）